

子どもたちの 悩みを受け止めるために。

学校の役割は多様化しています。さまざまな悩みを抱えた子どもたちの相談に乗り、
楽しく学校へ通えるように。3年間小学校で相談員を務めた梅田美千代さんに伺いました。

—相談員とは、どのような役割なのでしょう？

学校の先生とは別の視点で子ども話を聞ける大人。何でも気軽に話せて愚痴も言える相手ですね。子どもは話すことで気持ちの整理がつくことも多いし、こちらとしては問題の芽を小さなうちに摘むことができる可能性があります。保護者のお話を聞くのも大切な仕事です。「相談員」は総称で、市町によって呼び方は違います。

—スクールカウンセラーと相談員は違うのですか？

カウンセラーは専門の資格を持つ方ですが、相談員は子育てや地域活動の経験者など、もっと気軽に話し相手です。不登校の子どもたちは、



梅田美千代さん

この春まで、勝山市内の小学校で「親と子の相談員」を務める。現在は演劇を通して想像力や表現力などを引き出す「ドラマ教育」を実践する「うめだ演劇工房」を主宰。県子どもNPOセンター理事。

背後に家庭や学習面、人間関係など複雑な要因を抱えています。私たちはまず子どもに近い立場で時間をかけて、じっくり話を聞いていきま

す。

—まずは何でも聞いてあげるのですか？

状況がわかっただら、相談員は保護者や教師と連絡を取りながら支援方法を探ります。ケースに応じてカウンセラーの力をお借りして、協力して

解決にあたります。

—きめ細かなケアをしていることが分かります。

スクールカウンセラーは、中学校が全校配置になったとはいえ勤務は週1回程度、小学校の配置はまだ2割です。さらに一方で、相談員の数は減っている実態があります。社会が複雑になり、子ども

の悩みは多様化しています。関わる立場、共有できる時間、専門知識などそれぞれの特性

を生かし連携しながらの、効果的なケアが大切になってきます。

—今後も子どもの心のケアに関わる方々の役割は、ますます重要になりそうです。

悩みやストレスを抱える子どもたちは、長い目で見守ってあげることが大切です。相談員がコロナ変わってしま

うと、積み上げた信頼が途切れてしまいます。

県教組では、こうした子どもたちへの支援体制を整えようとして活動に取り組んでいます。地域や保護者の方々にも相談員やカウンセラーの役割を知っていただき、一緒に署名活動や学校や市町への直接要望などにご協力いただきたいと思います。

教師をサポートする子どもたちの相談役

スクール カウンセラー

臨床心理士など専門的な知識や経験を有する。平成23年度は県内に56人が配置。中学校は全校の74校に配置(1人が複数校兼務)、小学校の配置は45校と約2割。

スクール ソーシャルワーカー

社会福祉士など、福祉や教育の専門的な知識を持つ。不登校の子どもや家庭に直接向いたりと、学校や福祉関係機関、地域との連携を強化しながら対応。平成23年度は12人で県内全域を担当。

相談員、支援員など

免許等は不要だが、教育や子育ての経験が豊富で地域活動に積極的な人が多い。学校の要望に応じて市町などから派遣され、子どもと近い目線で相談や学校生活の支援を行う。雇用の条件はさまざま。



子どもたちの未来を、もっとよくするために。福井県教職員組合は活動しています。

福井県教職員組合 〒910-8544 福井市大手2-22-28 福井県教育センター内 電話 0776-23-1887 ファクス 0776-23-2919 <http://www.ftu.or.jp/>